



認定NPO法人Kacotam 活動報告書 2023 (2023年1月～12月期)

私たちが目指す社会
すべての子どもが学びの機会に出会い、自己実現に向けて挑戦できる社会

私たちの取り組み
環境に左右されない楽しい学びの場をすべての子ども・若者へ

特集 個別訪問等による学習支援 **テラス**

4名体制になった常勤職員らが語らう

職員座談会

活動ダイジェスト1
OB・OG会第1回イベント

活動ダイジェスト2
子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト

活動ダイジェスト3
お仕事カコタム

利用者の声

白石区に新スタサポ拠点 **コトル**

収支報告

NEXT ACTION 2024 & Message

【新活動】2023年からスタート 個別訪問等による学習支援

テラス

従来の拠点型学習支援を利用することができない子どもを対象に、個別訪問等を行う学習支援を開始しました。子どもの状況に合わせて、関係機関と連携しながら、一人ひとりに合った学びの場を作ります。また、本人や保護者からの相談を受けて、必要に応じた情報提供などを通して課題解決を図ります。

背景

これまで地域に拠点をづくり、主にひとり親家庭や生活保護世帯の子どもを対象とした学習支援を実施してきました。活動の中で、拠点型学習支援ではサポートしきれなかったり、途中で関わりが途切れてしまったりする家庭がありました。

場の難しさ

- ・過去の学校等におけるトラウマによって同世代の子どもがいる場が苦手
- ・感覚過敏*によって複数人が集まる場にすることが難しい

*感覚過敏：特定の匂いや音に敏感になったり、複数の匂いや音が重なることで苦痛を感じたりすること

通うことの難しさ

- ・家族の体調により来られないことがある
- ・保護者による送迎が困難
- ・公共交通機関で通うことが難しい
- ・不登校で外出することが少なく学習支援の拠点まで来る体力がない

取り組み

メンバーが利用家庭に訪問して実施する家庭訪問型、利用家庭の近くにある子ども食堂や公共施設等で実施する小規模拠点型の形態で行っています。1回の時間は60分～90分、月4回程度実施しています。

支援開始までの流れ

- ① 関係機関を通じた依頼
- ② 関係機関と訪問し、利用者・保護者と面談
- ③ 担当メンバー募集・決定
- ④ 担当メンバーと利用者の顔合わせ
- ⑤ お試し実施
- ⑥ 支援開始



名称の由来

「その子に合った学びの場を仕立てたい」という思いを込めて、テラス (Tailor Learning place Suited for the child) としました。



当年実績

利用者数 9名



連携機関等

機関等	件数
児童相談所	5
ファミリーホーム	1
児童養護施設	1
スクールソーシャルワーカー	1
子ども食堂	1

依頼理由

理由	件数
引きこもり	5
虐待	4
施設退所後のアフターケア	2
精神疾患	2
外部機関によるサポート困難	2
地域の社会資源不足	1
ヤングケアラー	1

※重複あり

関係機関の職員から

札幌市児童相談所 相談判定一課 横尾 昌弘

児童相談所で関わる子ども（家庭）は、複雑な背景を抱えており支援が届きにくいと感じることが多いのですが、多様な支援メニューをもつKacotamさんが、訪問等により積極的に支援を届けようと試みる「テラス」により一緒にしかかわってくださることで、よりよい支援につながっていると実感します。糸口がつかめず悩んだときにKacotamさんから「まずは一緒に訪問してみましよう」と声をかけていただき、大変心強く感じました。児童相談所と他団体が互いに強みを出し合えるよう、今後も協力し合うことが大切だと思いました。

活動メンバーから

ボランティアメンバー 河合 凜々子

私はスタサポや学ボラの活動も行っていますが、それらの活動と比べてテラスでは、よりその子に合わせた学習支援の仕方が必要になると感じています。その子の性格や家庭の事情を把握し、どのようにその子どもと信頼関係を築いていくのか・学習していくのかを、活動メンバー自身が考えなければいけません。そのような状況の中で手探りにはなりますが、自分なりに考えてその子と関わっていくことにはやりがいがあり、活動から学べることもたくさんあります。私は、大学生だからこそできる寄り添い方で、自分なりにこれからも一生懸命活動していきたいと思っています。

職員座談会

かんがえる・こうどうする・たのしむ

当年は新たに2名の職員が加わり、Kacotamは正規職員4名体制となりました。今回、4名の職員が集まって座談会を開催し、活動に対する想いや、今後Kacotamでやっていきたいことを話しました。

職員紹介



高橋 勇造 (ゆうちょ)

理事長
2012年1月～
社会福祉士(第199443号)



石井 知歩 (ちーちゃん)

常勤職員
2023年4月～
社会福祉士 (第284683号)
高等学校教諭1種免許状 (公民)



斉藤 勝也 (けーりー)

学び支援事業ディレクター
2019年3月～
高等学校教諭1種免許状 (理科)
情報処理安全確保支援士 (第023013号)



玉田 拓海 (たま)

常勤職員
2023年11月～
高等学校教諭1種免許状 (保健体育)
特別支援学校教諭1種免許状

Kacotamでのお仕事内容

【高橋】 理事長として、Kacotamの団体運営の全般を担っています。バックオフィスや資金管理、各事業の運営等です。現場としてはねっこぼこのいえに行っています。

【斉藤】 陽だまりの家、ゆるきちに行っています。その他、広報ファンディングやシステム開発等の裏方業務も行っています。

【石井】 スタサポ4拠点と学ボラ1拠点、あとポル、テラスに行っています。

【玉田】 スタサポ5拠点と、ゆるきちの運営をしています。カタチ化チームにも関わっています。

職員として働いてきて楽しかったことや大変だったこと

【高橋】 ひとりの子どもの成長をずっと見られることが楽しいと思う瞬間です。Kacotamを卒業した子が、大学生、社会人になった後もメンバーとして活動に参加してくれることもあり、

とても嬉しいです。大変だったことは、ヒトとカネの安定調達です。Kacotamは1対1の関わりを大事にしたいので、来てくれる子どもの数以上に、メンバーの数が必要です。また、団体運営のためにはどうしても資金が必要ですが、寄付金の金額が急に減ってしまうこと等があると、どのように資金繰りをしていけば良いか、非常に頭を悩ませます。

【斉藤】 そうですね、限られた資源の中で、目の前の子どもに対して理想的な支援ができないときは、無力感を感じますね。そんな中で、自分たちができることを考えたり、外部団体の力を借りたりしながら、なんとか工夫して最善と思える対応をするというのは、難しい部分でもあり、この団体で働く上での楽しい部分でもあります。

職員になってみて

【石井】 職員になって関わる子どもの数が一気に増えて、小学生から高校生まで幅広い層とコミュニケーションを取る中で、自分の引き出しがまだまだ少ないなと感じます。

【玉田】 メンバーだった頃は、とにかく目の前の子どもに全力投球をするという姿勢でしたが、職員になってからは、拠点にいるメンバーと子どものそれぞれの関わりを見ながらサポートする等、もう少し視点を広く持つようになりました。

これからやってみたいこと

【玉田】 今は自分の拠点の安定運営に精一杯ではありますが、子どもだけではなくメンバーにも楽しく参加してもらえるような工夫をしていきたいです。ゆうちょ(高橋)とけーりー(斉藤)が、新規事業や裏方の部分で組織としての「幅」を広げてくれているので、自分とちーちゃん(石井)は、活動の「厚み」を出すのが役割なのかなと思っています。そういう意味で、もっともっと、日々

の学習支援活動の質を高められたら良いなと思います。

【石井】 活動と活動のつながりを意識していきたいです。例えばポルで関わっている子が他の拠点に参加できるようになったり、メンバーも複数事業や複数拠点の視点が持てるようになったりするとより良いなと思います。

【高橋】 確かに、ポルから学ボラにつながることはあっても、家庭に戻った子がスタサポに来てくれるような事例はまだないので、そういう関わりができるようになるの良いですね。個別型、拠点型それぞれに良さがあるので、両方を持っているKacotamの良さをうまく還元できていると良いですね。



【斉藤】 ポルやテラス等の活動も始まって事業が増えていき、関わる子どもの背景や特徴が本当に幅広くなってきましたね。これまでは、複数拠点に行っているメンバーが個人の力量で各事業をつなげていく、みたいなことがありましたが、今後はそれを組織としてどう標準化していくかというのが課題になりますね。

ボランティアメンバーとどう関わるか

【斉藤】 メンバーも学生から社会人まで、背景もスキルも様々な、幅広い人が参加してくれていますよね。各々の良さをうまく引き出してつなげてあげることで、ひとりではできなかったこともできるようになると思いますし、それも職員の大事な役割なんじゃないかなと思っています。

【高橋】 いいですね。そのためには、まずは職員自身が、各メンバーがどんな人なのかを知るところからはじめるのが良いと思っています。

【玉田】 自分はけっこうメンバーとは気軽な関係を築きたいタイプなので、あまり気を使わずに、友達感覚でフラットに付き合っています。無理はさせない範囲で企画に他のメンバーを巻き込んでいたりしています。

【石井】 巻き込む力、大事ですよ！あとは、メンバーそれぞれに教え方や関わり方で上手になって思える点がたくさんあるので、それらをもっと他のメンバーや他の事業に広げていきたいと思っています。



長期的なビジョン

【高橋】 今はオンラインもありますが、やっぱり対面で学習支援が受けられる場があるというのが大事だと思うので、まずは北海道の全域で学習支援の場を展開していきたいですね。そういう意味ではまだまだなので、もっと行政や他施設、学校等とも連携していきたいです。

【石井】 私も社会資源との連携やアウトリーチに興味をもって入ったのですが、Kacotamで働いてみて難しさも実感しました。将来的には、団体内でそういったことの専門家になれるよう、もっともっと勉強していきたいです。

【玉田】 大学では教育心理学を学んできて、子どもとの個別の関わり方は得意だと思っています。学習支援のプロフェッショナルを目指していきたいですね。でも、ひとりではできないことには限りがあることも実感したので、団体内でどう学習支援の力を高めていけるかを追求していきたいです。

【斉藤】 今は、事業の幅も広がって、コロナ禍を経て子どものニーズも多様化している中で、もっと総合的な、団体としての組織力を高めたいなという風に思っています。特定の事業に特化するのではなく、各事業の質を高めて、団体としての力を高めることに、自分の力を注いでいきたいです。

【高橋】 そうして、Kacotam内の力を高めていった先に、団体外にも影響を出せるような、業界を引っ張っていくような、そんな存在に各々がなれたら良いですね。職員が増えたとはいえまだ4人しかおらず、大変なところもあると思いますが、これからもみんなで頑張っていきたいと思います！！

2023年の 活動 ダイ ジェ スト

数字で振り返る2023年

各活動で関わった子どもの数 (各活動で2023年1月～12月に1度でも関わった子どもを1名として計数。)

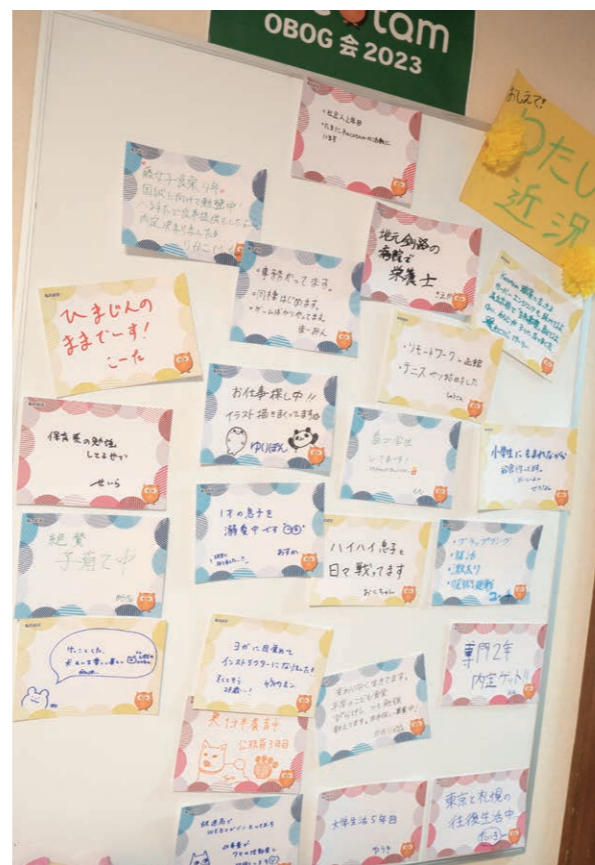
スタサポ	121名	学ボラ	46名
あうるねっと	21名	ポル	43名
受験カコタム	5名	テラス	9名
ゆるきち	39名		

OB・OG 会第 1 回イベント

団体として初めての同窓会イベント「OB・OG会」を開催しました。Kacotamの元利用者および元メンバーらOB・OGと、OB・OGと関わりのあった現メンバーを対象とし、中高生のオープンスペースゆるきちにて実施しました。

事務局を合わせて総勢24名が参加し、アワードセレモニーやクイズ、レクリエーション等の各種プログラムを楽しんだり、思い出話に花を咲かせたりしていました。また、会場には、「わたしの近況」「カコタムの好きなところ」を各々が書いて掲示するスペースを設け、話のきっかけづくりをしました。

参加者の中には、道南や道東から泊りで駆けつけた人、実に7年以上ぶりの人、結婚して子どもと一緒に連れてきた人などもあり、懐かしい仲間との再会に盛り上がるシーンも多くありました。すっかり大人になった元利用者たちが、懐かしい友人や昔なじみのメンバーと一緒にまるで当時に戻ったかのような表情で楽しんでいる様子も印象的でした。



子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト

サカモト見学会



「サカモト（現・株式会社funbox）の文房具の秘密を知りたい」という文房具が好きな小学生からの声を受け、funbox様のご協力により、同社の見学会をオンラインで開催しました。

会社の沿革やキャラクター商品を作る過程のお話、香り付きの消しゴムや鉛筆の作り方、光るボールペンの仕組みなどを説明していただきました。

参加した子は、文房具に対する興味がさらに深まったようでした。

コントローラー塗装をしたい



「ゆるきちのSwitchのコントローラーを塗装したい」という中学生からの声を受け、エアブラシを使用して塗装を行いました。

塗装のやり方を自分で調べたり、試し塗りをしたりして学んだポイントを活かしながら、本番の塗装では時間をかけて丁寧に取り組んでいました。

自分で考えながら手を動かし、デザイン通りに完成することができ、とても嬉しそうな表情を見せてくれました。

カコタム運動会をしたい



「運動会をやりたい!」という小学生からの声を受け、サッポロさくらんどにてカコタム運動会を開催しました。

当日は10名の子どもが参加し、年齢も普段利用している拠点も違う子たちが、スポーツを通して積極的にコミュニケーションをとる姿が印象的でした。

普段のスタサポでは見られない子どもの新たな一面を見ることもでき、楽しく大満足な企画となりました。

お仕事カコタム

芸能人のマネージャー編



株式会社クリエイティブオフィスキュー様にご協力いただき、芸能人のマネージャーの仕事についてお話を伺いました。

「北海道からエンターテイメントを発信していくためには、多岐にわたる仕事をしていかなければならない」と熱量をもってお話いただき、今後の進路を考える上での原動力となりました。

看護師編



NPO法人あえりあ代表理事の高橋様に、看護師に興味がある高校生のお話を伺いました。

病院や重度障害児向けデイサービスでの勤務経験、今の団体での活動も踏まえて、様々な視点から質問に答えていただきました。

病院勤務以外にも看護師の仕事が多くあると知ることができました。

栄養教諭編



小学校の栄養教諭として勤めている方に、話を聞きに行きました。

栄養教諭について、楽しさや難しさ、管理栄養士の試験勉強などの質問に答えていただきました。

訪問した子からは、これから栄養教諭に向かって歩み始めることに、わくわくしている気持ちが伝わってきました。

利用者の声

Kacotamを利用している子どもにKacotamを利用している理由や利用してよかったことなどを聞きました。

スタサポはありがたくゆるきちも楽しい

自分でできる教科は家でちゃっちゃと終わるけど、英語が一番苦手で、カコタムだと教えてもらえるしゆっくりちゃんとできるのでありがたいです。通信制高校の課題は授業に出れば答えはわかるけど、たまに最後までやらないで終わってしまうときもあるし、スクーリングも質問する感じではないので、そういうとき本当に困るので助かってます。家にずっといるのも疲れちゃうので違う場所に行きたくてゆるきちにも行くようになりました。今まで他のお泊まりとか楽しかったことがなかったんだけど、ゆるきちでのゲーム合宿は楽しかった。みんなやっているので一緒にスマブラをよくやります。最近強くなりました。

スタサポとゆるきちを利用している高校生（利用歴：3年）



集中と理解の機会確保になる

私が施設に入ったとき、同じ施設の上の学年の方が勉強していて、友人に誘ってもらったのもあり始めました。利用し始めたときは小学生で勉強が嫌だなんて価値観もありましたが、中学生になって受験もあることで気持ちの切り替えができました。あまり家では集中することができないタイプなので、時間を設けてくれているのがありがたいです。学校では先生を引き留めるのは申し訳ないって気持ちが湧いちゃうし、私は塾に行っていないので、個人対個人で人に教えてもらう機会がなかなかない。カコタムはやさしい雰囲気の話しかけやすく、苦手な分野が理解できてはっきりすると、勉強の楽しさにつながります。

母子生活支援施設での拠点型学ボラを利用している中学生（利用歴：5年）



勉強のイメージが変わった

メンバーの人たちが1対1で話してくれるから勉強しやすいです。前半は苦手な社会をやって休憩して、ちょっとまったりしながら後半は学校の課題をやったり。家でひとりで行うのと、教えてもらいながらやるのって定期的な勉強する習慣がついたし、勉強のイメージが「嫌」「面倒くさい」から変わりました。毎回メンバーが違う人で、コミュニケーション能力が上がるし新しい情報も入ってくる。メンバーは学校の友達と少し似ているところもあるけれど、年齢層が上だけあって悩んだりわかんないことがあったらいい感じに対応してくれるところがちょっと違います。カタチ化が楽しかったから、今度は料理をしてみたいです。

スタサポを利用している中学生（利用歴：1年）



【新拠点】2023年からスタート 白石区に新スタサポ拠点

コトル

2023年2月から、札幌市白石区にてスタサポ新拠点がスタートしました。子どもが学びや人とつながる場「Contact to learn」から転じて、「コトル（Cotl）」と名付けました。

経緯



白石区は児童相談所の相談件数^{※1}・生活保護世帯数^{※2}が多い地域であり、Kacotamとしても新たな拠点の必要性を感じていました。地下鉄からのアクセスが良く、教材等の保管も可能な会場を探すなかで、毎年寄付をいただいているKDDI株式会社北海道総支社からの紹介で、アルティウスリンク株式会社につながり、会場を確保できました。

※1：児童相談所 相談受理件数（令和3年度）1160件【東区に次いで2番目】
※2：生活保護 被保護世帯（令和3年度）8864世帯【東区に次いで2番目】

当年実績

利用者数	8名（延べ90名）
活動メンバー数	16名（延べ101名）
開催回数	22回
活動頻度	月2回（第二・第四火曜日）

アルティウスリンク株式会社が所有するPolaris_Sapporoを会場として無償で提供いただいています。



会場の特徴

コトル拠点の会場は、各テーブルがカーテンで区切られていることが特徴です。周囲を気にせず落ち着いて過ごせるので、学習やメンバーとの交流に集中しやすい環境といえます。

拠点の雰囲気

中高生が多い拠点のため、もくもくと学習に取り組み、集中している姿がよく見られます。休憩時にはボードゲームをしたり、メンバーと好きなドラマの話をしたり、それぞれリラックスして過ごしています。

メンバーの声

ボランティアメンバー 大崎 菜里

人のためになることをしたいという気持ちから、コトル拠点での活動を始めました。最初は緊張したものの、段々と子どもと打ち解けることができました。笑顔で挨拶してくれるとき、難しい問題を一生懸命考えているとき、好きな本のことを話すとき。一つ一つの子どもの姿に、とても元気づけられます。

誰かのために、そして自分のために、これからもコトルでの活動を続けていきたいです。

収支報告

2023年1月1日から2023年12月31日まで

NEXT ACTION 2024

科目	金額 (単位:円)
経常収益	17,318,335
受取寄付金	10,047,733
受取助成金等	378,000
事業収益	6,727,860
その他収益	164,742
経常費用	14,159,483
事業費	11,521,371
人件費 (給与手当/法定福利費)	6,957,763
教材費	73,463
備品費	344,000
諸謝金	967,117
食材費	90,974
広告宣伝費	47,511
交際費	37,165
会議費	165,811
旅費交通費	1,922,730
通信費	142,995
消耗品費	245,929
水道光熱費	176,083
賃借料	247,350
支払保険料	102,480
管理費	2,638,112
人件費 (給与手当/法定福利費)	1,209,697
通信費	380,849
会費負担金	45,600
福利厚生費	77,500
租税公課	37,400
水道光熱費	65,453
賃借料	568,810
支払手数料	32,196
雑費	220,607
経常外収益	0
経常外費用	0
当期正味財産増減額	3,158,852
前期正味財産額	33,632,930
次期繰越正味財産額	36,791,782

※当年は、全て特定非営利活動に係る事業となり、その他の事業はありませんでした。

※前年まで分を含め、Kacotam公式WEBページにて、活動計算書及び貸借対照表を公開しています。

A 受取寄付金
内訳は、以下の通りです。

個人	6,069,146円
法人・団体	3,978,587円

A

B 事業収益
内訳は以下の通りです。

学び支援事業	5,378,770円
コンサルティング事業	831,000円
アドボカシー活動事業	518,090円

B

C

D

E

学ボラやあうるねっとの活動の一部で、団体や行政からの業務委託を受けたこと、例年よりも道内外で講演会の依頼を受けたことで、増加しました。

C 人件費【事業費、管理費】
内訳は以下の通りです。

常勤職員	4名
(理事長分は、事業費に2/3、管理費に1/3を計上)	
非常勤職員	8名

当年は途中から常勤職員が2名体制から4名体制と変化したため、来年の人件費(事業費・管理費)は、400万円増の1,200万円ほどを見込んでいます。

F

G

D 備品費
あうるねっとの貸出用タブレット5台を購入した分です。

C

E 諸謝金
有償ボランティア9名への謝礼です。来年は、約75万円増を見込んでいます。

G

F 旅費交通費
主に、ボランティア交通費、職員交通費などです。

G 賃借料
【事業費】スタサポ会場代です。
【管理費】事務所の家賃分です。

G

H 次期繰越正味財産額
大きく収入が減少したとしても、活動の継続性を担保するために現状の活動を無収入で1年6ヶ月継続するだけの資金(最低1年間)を目標に積み立てています。来年は、経常費用が約700万円増を見込むため、経常収益を約400万円増加させる必要があります。

H

2024年は、2025年の活動拠点・地域拡大にむけて、組織体制の強化、既存の活動・拠点の安定化を重点的に進めていきます。

ACTION 1 各活動の見直し・整理

常勤職員4名体制となり、新体制での最適化を図るうえで、各活動の意義や活動状況、成果を踏まえて、継続の有無や団体内の資源配分を見直します。

ACTION 2 行政との連携の維持と強化

当年から開始したテラスを通して、児童相談所の現場職員との連携が行われるようになっていたことから、それを維持しつつ、組織同士の連携ができるようにアプローチします。

ACTION 3 子どもの受け入れ体制の強化

スタサポや学ボラ等における学習支援の申込みや依頼を多く受けているため、ボランティアメンバーの拡充により受け入れ体制の強化を行っていきます。



いつもKacotamを支えていただき、ありがとうございます。約230名の子どもに学びの機会を継続して提供することができました。

当年は、行政との連携が生まれる1年となりました。北海道教育庁から業務委託を受けて、オンラインで高卒認定試験対策の学習支援を試行的に実施したり、テラスで児童相談所の現場職員と連携して、ご家庭を訪問したりしました。また、障がいに関わる相談室や精神科の病院、スクールソーシャルワーカー等とも連携しています。これまで以上に他機関からの依頼や相談が増え、「学習支援と言えばKacotam」と様々な分野で認知されつつあります。

2024年も皆さまとともに、「すべての子どもが学びの機会に出会い、自己実現に向けて挑戦できる社会」を目指して、子どもの学びの場づくりに努めて参ります。

認定NPO法人 Kacotam 理事長 **高橋 勇造**



寄付金によるご支援をいただいた企業・団体等 ※順不同・敬称略

KDDI株式会社 北海道総支社	株式会社ラプト
NPO法人札幌チャレンジド	株式会社レクト
アクセント株式会社	公益社団法人日本フィランソロピー協会
アマゾンジャパン合同会社	国際ソロプチミスト札幌
旭イノベックス株式会社	札幌西ライオンズクラブ
医療法人社団明日佳	社会医療法人平成医塾 苫小牧東病院
一般社団法人MDRT日本会	税理士法人すずらん総合マネジメント
株式会社《a》	中原圭祐公認会計士事務所
株式会社APクリエイション	NPO法人麻生キッチンリあん
株式会社ア・ド建築工房	日本技研北海道有限会社
株式会社アミノアップ	北海道生活協同組合連合会

活動への運営協力をいただいた企業・団体等 ※順不同・敬称略

しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道	COCOTOMA
藤女子大学(隈元ゼミ)	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
NPO法人陽だまりの家	NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ
NPO法人麻生キッチンリあん	株式会社エデュケーションアルネットワーク
琴似連合町内会	アルティウスリンク株式会社
社会福祉法人扶桑苑	FRSコーポレーション株式会社
あすかの森認定こども園	Ai TERANAGANE makeup studio
公益財団法人日本ライオンズ	手稲さと川探検隊
ハピぼん事務局	西野子ども食堂kaokao
あさぶ商店街	ていねコミュニティカフェめりめろ
NPO法人ねっこぼっこのいえ	



発行
発行日

認定NPO法人Kacotam
2024年3月31日

Thank you for your cooperation